研修名	**乳児保育・教育 / 幼児教育・保育Ⅰ**
	令和２年１月２７日 １３：３０～１６：００
講　演	**「発達とそのメカニズム（乳児・幼児）」**
講　師	**京都大学大学院　教育学研究科・教育学部**
	教授　　明和　政子　氏

１　講演要旨

① 人の子育ての基本は「共同養育」（それを可能にしたヒト特有の心）

・チンパンジー（野生・飼育下）の違いから分かること

→養育行動は遺伝的に既定され、自然にできるものではない。

→ヒトは「共同養育」の形質を獲得して進化してきた生物である。

⇒育児は経験によって、発達し、自然にできるものではなく、環境が大きく影響する。

・相手の心を理解するには、ミラーニューロン（自分が経験したことが　あることが無意識に伝わる）とメンタライジング（自己と他者の心を切り離し、イメージする）の２つの神経ネットワークが重要である。

・年中、年長児の時期にメンタライジングがより発達する。

→見え方の違いを理解する“視点変換”

→未来をイメージして、我慢することができるようになる。

⇒相手の心の状態を（自分の心と独立させて）推論しながら、適切なイメージを想像して教育する。

② 発達は「でこぼこ」と進む（右肩上がりに進むわけではない）

・脳の感受性期（生後８か月）に「刈り込み」が起こる。

・どのように関わるかで効果が得られやすい。

⇒相手の思いを切り離して考え、メンタライズを活性化させる。

異年齢活動を共有する経験は有効

・早産児は早期からの発達診断、評価、支援が必要である。

③ ヒトは胎児期から「身体を介して」他者から学習する生物である

・触覚刺激は一示体性感覚野を推定される部位に限定されず、脳を広範囲に活動させる。

・タッチは赤ちゃんの記憶学習を促進する。

・なぜ人間は身体接触によって、学習・発達する生物なのか。

→外受容感覚（五感）、自己受容感覚（筋骨格系感覚、平衡感覚）、内受容感覚（内臓感覚）の３つを同時に働かせ、発達させている。

⇒他者は「心地よさ」をもたらしてくれるという記憶

→他者と円滑に関係を築いていくための土台

２　感想

脳の仕組みや働きを知ることで、ヒトが持つ発達する能力について詳しく知ることができ、子どもの育ちについて、より深く考えることが出来た。ミラーニューロンとメンタライジングの働きと役割を学んだ時、相手の心の状態を察したり、自分の心と切り離して考える力について、ヒトならではの在り方を改めて認識することができ、保育者として子どもたちと関わる上で、大切に育てられるようにしていきたいと思った。また、日頃の生活の中でも、子どもたちの心と体の成長を支援できるように今後も私自身も様々な経験や学びを大切にしていきながら、丁寧な関わりと深い愛情を持って過ごしていきたいと感じることが出来た。

社会福祉法人 不動園 あみの夢保育園 稲本愛